

ミルクサイエンス誌への投稿の手引

この手引は、ミルクサイエンス誌への投稿原稿の執筆のための指針として、投稿規定を補うためのものである。

1. 原稿は、1) 表紙、2) 本文 (Abstract, 緒言, 材料および方法, 結果, 考察, 要約, 謝辞), 3) 引用文献リスト, 4) 図表 (説明文を含む) とする。表紙を第1頁とし、全ての原稿用紙の下端中央部に、通し番号をつける。
2. 表紙には、表題、著者名、所属 (所在地) を記入する。著者が複数の場合には、和文では氏名を「・」で区切り、英文では「,」で区切って記し、所属が複数の場合にはそれぞれ氏名の右肩に数字¹, ², ³…等を付して所属と対応させる。連絡者には必ず「*」等を付し、脚注に Tel&Fax 番号および E-mail アドレスを書くこと。

<和文原稿の表紙の例>

組織化学的手法によるチーズならびにバターのタンパク質と脂肪の存在様式とその分布に関する研究

長縄貴直^{1*}・渡邊康一²・神崎文次¹・太田智章¹・虻川久美子¹・細野明義³・山口高弘²

¹ 日本乳業技術協会, 東京都千代田区 102-0073

² 東北大学大学院農学研究科, 仙台市 981-8555

³ 信州大学大学院農学研究科, 長野県南箕輪村 399-4598

Histochemical Studies on Protein and Fat in Cheese and Butter

Takanao Naganawa^{1*}, Kouichi Watanabe², Bunji Kanzaki¹, Tomoaki Ohta¹, Kumiko Abukawa¹, Akiyoshi Hosono³, and Takahiro Yamaguchi²

¹ Japan Dairy Technnical Asociation, Chiyaoda, Tokyo 102-0073

² Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University, Sendadi 981-8555

³ Graduate School of Agricultural Science, Shinshu Universsity, Minamiminowa-mura, Nagano 399-4598

*連絡者 (Tel&Fax: 03-3264-569, e-mail: naganawa@jdta.or.jp)

<英文原稿の表紙の例>

Histochemical Studies on Protein and Fat in Cheese and Butter

Takanao Naganawa^{1*}, Kouichi Watanabe², Bunji Kanzaki¹, Tomoaki Ohta¹, Kumiko Abukawa¹,
Akiyoshi Hosono³, and Takahiro Yamaguchi²

¹Japan Dairy Technnical Asociation, Chiyaoda, Tokyo 102-0073

² Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University, Sendadi 981-8555

³ Graduate School of Agricultural Science, Shinshu Universsity, Minamiminowa-mura,
Nagano 399-4598

*Corresponding author (Tel&Fax: 03-3264-569, e-mail: naganawa@jdta.or.jp)

3. 表題は、論文内容を的確、かつ、簡潔に表現する。
4. 著者の所属機関とその所在地は、著者全員の氏名、所属機関および部局、その所在地を記入する。所在地は、郵便物が正しく配達される範囲とし、最後に郵便番号を記入する。
5. 本文について、原著論文およびノートの構成は、和文原稿では、Abstract (英文)、緒言、実験材料と方法、結果、考察、要約、謝辞の順とし、英文原稿では、Abstract, Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgment, 和文抄録の順とする。ただし、実験方法と結果、あるいは、結果および考察のように合わせてもよい。総説、調査報告、および解説についての本文記述は、とくにその形式を定めない。
6. Abstract は、目的、方法、結果、結論の要点を 250 語以内で簡潔明瞭に表現する。
7. 引用文献リストは、下記の例にならって作成する。文献の略号は原則として Chemical Abstract の規定に従うこと。

(ア)和文雑誌の場合

渡邊康一・神崎文次・太田智章・虻川久美子・細野明義・山口高弘：組織化学的手法によるチーズならびにバタータンパク質と脂肪の存在様式とその分布に関する研究。ミルクサイエンス， 51, 33-37 (2002)

(イ) 欧文雑誌の場合

Hassan, A., Johnson, M.E., and Lucey, J.A.: Changes in the properties of soluble and insoluble calcium during the ripening of Cheddar cheese. *J. Dairy Sci.*, **87**, 854-862 (2004)

(ウ) 和文書籍の場合

足立達・伊藤敏敏:「乳とその加工」, 建帛社, 東京, pp. 52-70 (1987)

(エ) 欧文書籍の場合

Swaigood, H.E.: Chemistry of casein. in *Advanced Dairy Chemistry-1. Proteins*. P.F. Fox ed. Elsevier Applied Science, London, pp. 63-110 (1982)

8. 図は1つずつ別葉に作成し、和文原稿も原則として英文表記とする。写真は図として取り扱う。図中の数字、説明語はコンピューター、またはレタリングセット等を用いて、出来上がりの縮尺を考えて記入すること。図は Fig. 1, Fig. 2 のように通し番号をつけ、代表者名、希望する縮尺を左下端に鉛筆で記入すること。図の英語説明文は、図とは別の用紙にまとめて記載する。英文のタイトルは、最初の文字のみを大文字とし、最後に「.」をつける。タイトルは、図の内容を適切に示すものとし、説明は本文を参照になくても、その実験条件がわかる程度に簡潔に記すこと。
9. 表は1つずつ別葉に作成し、和文原稿であっても原則として英文とする。表は横罫線のみを用い、縦罫線は用いないこと。表の上部には「Table 1.」のようにアラビア数字で番号をつけ、内容を適切に表すタイトルをつける。英文のタイトルは、最初の文字のみを大文字とし、最後には「.」をつける。